



ROKIT Generation Five

モニタリングシステム

取扱説明書



KRK Systems では、過去 30 年以上にわたってプロフェッショナルオーディオモニタリングの分野で揺るぎない基盤を築き、革新性と精度に関する豊かな歴史を通じて、業界リーダーとしての評価を確立しました。KRK Systems は、プロの音楽家や音楽愛好家によるオーディオ体験に革命を起こすべく、1986 年に設立されました。

KRK Systems は、設立当初より、スタジオモニターの設計において、高い精度と正確性を優先してきました。ピュアなサウンドを再生するというコミットメントに基づいて、アイコンックな Kevlar® アラミドファイバーウーファーや、科学的にチューニングされたフロントバスレフポートシステムの開発など、スピーカーテクノロジーにおける数多くの進歩を実現してきました。これらは、比類のない明瞭かつ正確なサウンドを再生するという KRK のコミットメントの代名詞となっています。

KRK では、長年にわたってスタジオモニターを改良し、最先端のテクノロジーと実績あるオーディオエンジニアリングの原則を融合させてきました。信頼とパフォーマンスに裏打ちされ育まれた伝統に支えられた KRK Systems の製品は、最高の音質と信頼性を求める人々にとって最適なチョイスであり続けています。

世界中のミュージシャン、プロデューサー、サウンドエンジニアからの多様なニーズに応える KRK Systems ROKIT Generation Five 製品群をお使いになって、その違いをご自分の耳で体験し、オーディオ制作を新たなレベルまで引き上げてください。チャート 1 位のヒット作、映画音楽、個人プロジェクトなど、音楽制作のジャンルが異なっても、KRK Systems ROKIT Generation Five モニターは、サウンドのニュアンスを細部まで明瞭に捉える上で必要不可欠なツールとなります。

当社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

重要な安全情報

安全に関する指示

- 1.指示を熟読する** — 本器を使用する前に、安全に取り扱うための指示をすべてお読みください。
- 2.取扱説明書を保管しておく** — 将来参照できるように、本書を大切に保管しておいてください。
- 3.警告を遵守する** — 製品や取扱説明書に記載されている警告を必ず守ってください。
- 4.指示に従う** — 操作や使用に関する指示に必ず従ってください。
- 5.洗浄** — 本器を洗浄する前に、コンセントを抜いてください。液体クリーナーやスプレー式クリーナーは使わないでください。洗浄には濡らせた布をお使いください。
- 6.付属品** — メーカーが推奨していない付属品を取り付けると危険な状況を引き起こすことがあります。
- 7.水と湿気** — この製品を、浴槽、洗面器、台所の流し台、洗濯槽の近く、あるいは湿った地下室、またはプールの近くなど、水の近くで使用しないでください。
- 8.アクセサリ** — 本器を、不安定なカート・スタンド・三脚・ブラケット・テーブルの上に置かないでください。本器が人の上に落下すると、大怪我をすることがあります。また、本器に重大な損傷が発生することがあります。メーカーが推奨するカート・スタンド・三脚・ブラケット・テーブル、または、本器専用で別売されているカート・スタンド・三脚・ブラケット・テーブルの上で使用してください。本器を据え付ける際にはメーカーの指示に従い、メーカーが推奨するマウント アクセサリをご使用ください。
- 9.カート** — カートの上に本器を載せて移動する場合には、十分注意を払った上で移動させてください。急に停止したり、余分な力を加えたり、不均一な面の上を移動させると、本器を載せたカートが倒れることがあります。
- 10.通気** — 筐体には、本器の確実な動作を保証し、過熱から保護するために、通気口が設けられています。この通気口をふさがないようにご注意ください。本器をベッドやソファや敷物などの上に置くと通気口がふさがれることがあるので、絶対にそのような場所で本器を使用しないでください。通気が不十分だったり、メーカーの指示に従うことができない場合には、本器を既設の本棚やラックなどに設置しないでください。
- 11.電源** — 本器はラベルに記載された電源装置のみを使用し、保護用の接地端子のあるコンセントに接続して動作させてください。ご家庭の電源コンセントの形式について不明な点がある場合には、お近くの電力会社までお問合せください。
- 12.電源コードの保護** — 電源コードは、足で踏み付けられたり、上に物を載せる恐れのない場所に配線してください。特に、プラグの根本、アウトレット、本器からコードが出ている部分などに注意を払ってください。
- 13.電源プラグ** — 断路装置として電源プラグまたは電源接続器を使用した場合、電源接続器は直ちに動作する状態になっています。
- 14.落雷** — 雷の発生中に本器を確実に保護する目的で、また、本器を長期間使用せずに放置する場合、コンセントから電源ケーブルを外し、アンテナやケーブルシステムを抜いておいてください。これにより、落雷や電源のサージ電圧から本器を保護することができます。
- 15.過負荷** — 火災や感電の危険がありますから、コンセント、延長コード、内部のアウトレットに過負荷を加えないでください。
- 16.火の気** — 本器の上に、火のついたろうそくなど裸火を置かないでください。
- 17.異物や液体の侵入** — 本器の開口部分から本器内に異物を入れないでください。危険な高電圧がかかっている部分に触れたり、部品が短絡して、火災や感電が発生する恐れがあります。本器の上に液体をこぼさないでください。
- 18.スピーカー** — スピーカーからの音量が大きすぎると、難聴になる恐れがあります。
- 19.修理を必要とする不具合** — 以下の症状が発生した場合には、本器をコンセントから抜き、有資格技術者にご連絡ください：
 - a. 電源コードまたはプラグが破損した場合。
 - b. 本器内に液体をこぼした場合、または、異物が入った場合。
 - c. 本器が雨や水に濡れた場合。
 - d. 取扱説明書の指示に従っても正常な動作をしない場合。取扱説明書でカバーされているコントロール類のみを調整してください。それ以外のコントロール類の調整を誤ると、本器が破損し、修理担当者が正常な動作に戻す際に余分な時間がかかる恐れがあります。
 - e. 本器を落下させた場合、または、何らかの損傷が生じた場合。
 - f. 本器の動作に著しい変化が見られた場合、修理が必要となります。
- 20.交換用部品** — 交換用部品が必要な場合、修理担当技術者が、メーカー指定の部品またはその部品と同じ性能を有している部品を使用したことを確認してください。非認定の代替部品を使用すると、火災や感電などの危険が発生することがあります。
- 21.安全点検** — 本器の整備や修理が完了したら、修理技術者に安全点検を依頼し、正常に動作することを確認してください。

警告

二等辺三角形の中の矢印のついた稲妻の閃光のシンボルは、人に電気ショックを与えるに十分な、絶縁されていない「高電圧」の危険が製品のケース内にあることを警告するものです。

二等辺三角形の中の感嘆符は、重要な操作方法およびメンテナンス方法の記述が製品に付属の説明書にあることを示します。



本器は接地端子付きのコンセントに接続してください

設置に関する注意事項

通気を十分に維持するため、本器の周囲に（突起など最大寸法の部分から測って）、以下に示す値よりも大きな空間があることを確認してください。

上面、底面、前面、後面、左側面、右側面：10cm。

注意

本装置に、KRK SYSTEMS が明示的に許可していない変更や改造を加えた場合、ユーザーは、本装置を使用する権利を失うことがあります。

注意

感電を防止するために、プラグの幅が広い方の端子をコンセントの幅が広い方のスロットに入れ、プラグを根元まで完全に差し込んでください。

注意

マーキングや定格を記載したプレートは、本器の背面に貼付してあります。

警告

火災や感電を防止するため、本器を雨や水で濡らさないでください。

水滴がかからないように、機器の上に花瓶など液体の入った容器を置かないでください。

断路装置として電源プラグを使用した場合、電源接続器は直ちに動作する状態になっています。本器を電源から完全に切り離すには、コンセントから電源プラグを完全に抜いてください。

バッテリーを、直射日光や裸火などの高温の熱源にさらさないでください。

注意

保護用接地端子の付いた機器は、保護用接地端子の付いたコンセントに接続してください。

疑問の点がある場合、電気工事士にお尋ねください。

環境保護に関する注意事項

この製品は、耐用年数の経過後、通常のご家庭ごとと一緒に廃棄することはできず、電気電子機器のリサイクルのための収集場所に戻さなければなりません。本器や取扱説明書や梱包材に、その旨記載してあります。

使用材料は、それぞれのマーキングに従って再利用できます。原材料の再利用やリサイクル、および、古い製品のリサイクルを通じて、大切な環境が保護されます。

回収施設の場所については、お近くの地方自治体にお尋ねください。

FCC ステートメント

本装置は、FCC（米国連邦通信委員会）規則第 15 章の内容に準拠しています。取り扱いには以下の 2 つの条件を守って行なわれる必要があります：(1) 本装置が有害な干渉を引き起こさず、(2) 本装置が、誤動作を引き起こす恐れのある干渉を含めて、いかなる干渉を受けても耐えること。



注記: 本機器は、テストされ、FCC（米国連邦通信委員会）規則第 15 章に従った、クラス B デジタル機器に対する制限に準拠することがわかっています。

システム セットアップ

不要な室内音響による相互作用を防止する上で、システムの全体的なセットアップが重要となります。部屋の自然な音響によって異常な減衰や反射が起こり、周波数帯域ごとの音量レベルが異なってきます。詳しくは、下のチェックリストに従ってください。

1. 部屋の前面 1/3 以内に、システム セットアップ（スタジオモニターと作業デスク）を配置してください。これにより、ピーク周波数帯における反射の蓄積が防止できます。
2. システム セットアップの左右の側面は、左右の壁面から等距離に配置します。側壁における最初の反射ポイントで、吸音処理を施します。これにより、周波数応答が均一になり、立体音響が維持されます。
3. リスニングポジション（耳の位置）は、どの壁面からも 1 メートル以上離してください。スタジオ モニターやリスニング ポジションの近くに、大きな物体（ランプやデコレーション）を置かないでください。
4. 部屋の隅や後部にディフューザーや吸音材を置くと、有害なルームモードが除去しやすくなります。
5. 硬い床面にカーペットを敷くと、床面からの反射が防止できます。

6. スタジオ モニター アイソレーター (フォームやゴムのパッド) を使用すると、スタンドとデスクの間で低周波結合が起こりにくなります。低周波結合によってスタンドやデスクが振動し、不要な雑音が発生します。
7. 低音域を細部まで聞き取ることができるようにするには、スタジオルームは低ノイズフロア (冷蔵やファンなどからの外部妨害がないこと) であることが重要です。再生音によるスタジオモニターの振動も除去しなければなりません。



システム セットアップ中は、以下のようにして、スタジオ モニターとリスニングポジションをニアフィールド配列にします：左右のスタジオモニターの間の距離を 1~1.5 メートルにし、リスニングポジションから見た左右スピーカーの間の角度が 60 度になるように配置します。左右のスタジオモニターの間の距離を測り、リスニングポジションと左右のスタジオ モニターとの間の距離が、それと等しくなるようにします。このとき、リスニング ポジションと左右のスタジオ モニターで正三角形が構成されます。左右のスタジオモニターのレベルをマッチさせる (同じ音量にする) ことが重要です。

ROKIT G5 は、ツイーター (高音を再生する) とウーハー (中低音を再生する) が 1 台の筐体に収納された 2 ウェイ スタジオ モニターシステムです。ツイーターとウーハーの中間が音響軸ポイントです。音響軸ポイントを、リスニングポジションの耳の高さに直接向けてください。音響軸が正しい方向になるように、スタジオ モニターを傾けてもかまいません。

重要: ROKIT G5 モニターの電源を入れる前に、接続がすべて完了していることを確認してください。フェーダーとコントロールをすべて最小レベルにセットし、他のすべての機器に電源を入れてから、KRK モニターの電源を入れてください。

注記: ROKIT G5 モニターには、フリクションロック Neutrik® コンボ入力コネクタが装着されています。XLR ケーブルまたは TRS (先端、リング、スリーブ) 1/4 インチ平衡ケーブルで、インターフェイスやミキシングボードやモニターコントローラーに接続します。もしくは、1/8 インチ

ステレオ〜デュアル 1/4 インチ不平衡アダプターケーブルを使用して、直接スマートフォンやコンピュータや音楽プレイヤーに接続することもできます。(注意：必ずデバイスの音量を最小にしてから、お好みの音量にしてください。)

電源を入れる

初めて ROKIT G5 の電源を入れたときには、ユニット前面のロゴが点灯し、約 5 秒間、起動シーケンスが実行されます (LCD に KRK ロゴが表示され、続いて ROKIT G5 ロゴが表示される)。すると使用準備が完了します。

スタンバイ

本モニターには、30 分以上使用しなかった場合に自動的にスタンバイモードに移行する機能があります。SETUP メニューから自動スタンバイモードをオフにすると、それを無効にすることができます (下記参照)。省エネの目的で自動スタンバイを使用したい場合、もしくは電源スイッチに手が届きにくい場合は、自動スタンバイをオンのままにしておいてください。スタンバイ状態になると、KRK ロゴがゆっくり点滅し始めます (通常の状態では KRK ロゴライトがオフになっている場合も同様)。あるいは、ファンクションノブを 7 秒間長押しして、強制的にスタンバイモードにすることもできます。

-50 dB 以上の信号を入力すると、スタンバイモードから起動状態になります。すると、モニターが自動的に再起動します。モニターが突然再起動した場合に、大音量で音が出てくることがないように、徐々にソースレベルを上げるようお勧めします。もしくは、ファンクションノブを押すだけで、スタンバイ状態から直ちに再起動することもできます。

モニターのバーンイン

システムのセットアップが完了したら、重要な作業やクリティカルリスニングの前に、時間をかけて新品のモニターをバーンインする必要があります。モニターのトランスデューサー (スピーカーまたはドライバーとも呼ばれる) は複雑な電気機械式機器であり、動作状態を最適化するには多少「落ち着かせる」必要があります。KRK Systems の設計・開発プロセスでは、トランスデューサーを適切にバーンインした後に最終的なチューニングとボイシングが行われています。このため、本モニターは、バーンインしなければ最適な動作状態とはなりません。

通常よりもわずかに大きな音量で約 30 時間ダイナミックレンジの広い音楽を再生するか、約 +85dB で 20 時間、全音域ピンクノイズを再生することをお勧めします。バーンインは連続的に実行する必要はありませんので、時間をかけて音楽を聴きながらモニターの状態を整えてください。

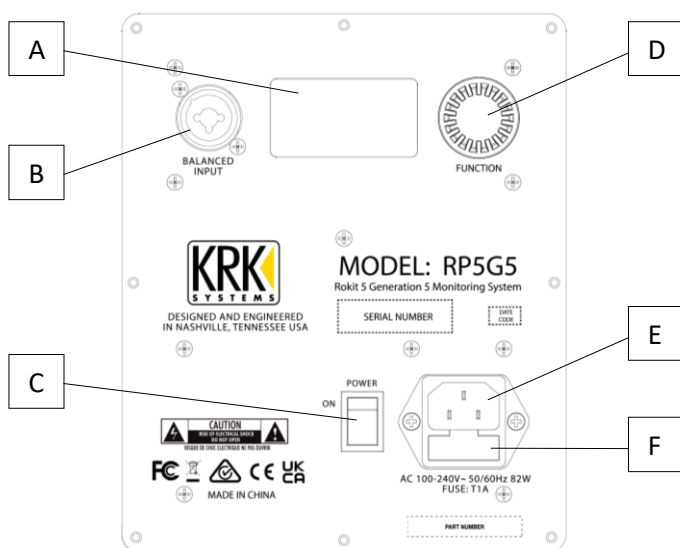
フェイスプレートおよび保護グリルフェイスプレート

ROKIT G5 モニターは、保護グリルのフェイスプレートを取り付けた状態で出荷されます。これらは見栄えを良くするだけでなく、不用意に指を突き刺したり不意な衝撃からモニターのドライバーを保護する目的で装着されています。ROKIT G5 モニターには、モニタードライバーが破損する危険がない場合や、ROKIT G5 の保護グリルを取り外した外観が好みの場合に使用できる、非保護型のフェイスプレートも付属しています。保護グリルフェイスプレートを使用しても、ROKIT G5 モニターの音に影響は出ないはずですが、グリルは、着脱しても周波数応答に変化が生じないように設計されています。

フェイスプレートはマグネットで装着されています。フェイスプレートを変更するには、ポートの左端または右端に近い部分に手を入れ、フェイスプレートを前方に引いて取り外し、好みのフェイスプレートをはめ込みます。

フォームウェッジモニター遮音パッド

ROKIT G5 モニターには、モニターとワークステーション間で音と振動を遮断し、モニタリングシステム全体の精度を改善する、フォームウェッジ遮音パッドが付属しています。これには、リスニングポジションで、モニターを適切な耳の高さに配置するための役目もあります。モニターを傾ける必要がない場合でも、遮音パッドを使用するようお勧めします。



参考として ROKIT 5 Generation Five を示す

A - LCD ファンクション画面 - レベル、ボイシングモード、EQ、システムの各設定を表示します

(注記: LCD の寿命を長くするため、LCD 画面は、5 分間使用しないと自動的に消灯します。ファンクションノブを押すともう一度点灯します)

B - アナログ入力 - 平衡 XLR / 1/4 インチ平衡 TRS または不平衡 TS フォーンジャック

C - 電源オン/オフスイッチ

D - ファンクションノブ - 回して押すと、ファンクションにアクセスするので、パラメータを調整します

E - IEC320 C14 AC インレット

F - 5x20 mm ヒューズホルダー (ヒューズ定格はホルダーの下に記載)



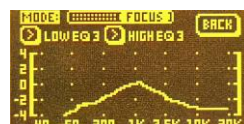
HOME SCREEN は、モニターの電源が入り起動シーケンスが完了すると、表示されます。システムの概要が一目でわかるように、レベル、ボイシングモード、EQ の各設定が表示されます (ここでは MIX モードを表示)。ホーム画面から、**FUNCTION** ノブを回してレベルを増減したり、**FUNCTION** ノブを押して **EQ**、**SETUP** などにアクセスすることができます。

VOLUME は、工場で 0 dB (入力感度+4 dBu) に設定されています。希望のレベルに設定したり、スタジオ内の他のモニターと一致できるように、両方のモニターで等しく 0.1 dB ステップで増減します。

MENU 画面で **EQ** を選択するとイコライザー設定に進みます。



Voicing Modes は、ファンクションノブを押してモードを切り替えると、変更できます。



Mix Mode - 周波数応答と位相応答をフラットにすると、ミキシング、マスタリング、クリティカルリスニングに最適です。

Create Mode – 作曲、制作、カジュアルなリスニングに最適な、感情に訴えかけるボイスング。

Focus Mode – 中音域を細かく分析できるように、中域に重点を置いたボイスング。

ファンクションノブを回して押し、**Low EQ** を選択します。ファンクションノブを回して希望の **Low EQ** 設定にスクロールし、押して選択します。



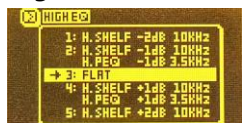
L.SHELF Cut (-dB) 設定は、境界条件フィルターです。この EQ 設定は、モニターが壁などの大きく硬い面の付近に設置されている場合に発生する余分な低音域をロールオフします。

L. SHELF Boost (+dB) 設定で、低音域を増強することができるので、好みに合わせて設定してください。

L.PEQ は、200 Hz を中心とした Q の大きいパラメトリック EQ です。これはデスクフィルターとも呼ばれ、大型ミキシングボード（別名「デスク」）や大型ワークステーションのような大きな反射面によって生じる低中域ブーストを抑える上で役立ちます。

注記: 「2」に設定すると、境界条件フィルターとデスクフィルターの両方が使用できます。

ファンクションノブを回して押し、**High EQ** 選択します。ファンクションノブを回して希望の **High EQ** 設定にスクロールし、押して選択します。



H. SHELF および H. PEQ EQ は、最適とは言い難い音響環境でよく使用されます。部屋の構成や吸音量によって反射が強くなったりサウンドが明るくなるスタジオでは、高域を

減衰する必要があります。また、減衰量が大きくサウンドが暗くなるスタジオでは、高域を増強する必要があります。適切な EQ を選択して、特定の環境に合わせてモニターを調整してください。Back ボタンまでスクロールしてそれを押すと、以前の **MENU** 画面に戻ります。

MENU 画面で **SETUP** を選択して、システム全体の好みを調整します。



BACKLIGHT で、LCD の背景照明の輝度を調整します。暗いスタジオでは、背景照明を落とすと目が疲れにくくなります。室内照明に合わせて背景照明を調整する際には、

暗すぎる程度まで一旦背景照明を下げてから、見やすくなるまで徐々に明るくするようお勧めします。

CONTRAST：モニターが所定の位置に配置されたら、ご自分の視野角から像の焦点が最高になるように設定します。

STANDBY：これを使用して、スタンバイ機能を起動・解除します。スタンバイが指定されると、ユニットは 30 分間音声信号が検出されなかったときにスリープモードになります。

-50 dB のオーディオ信号が入力されると、モニターが起動します。

LOGO で、前面の KRK ロゴの ON、DIM、OFF を選択します。お使いのスタジオの環境光に従って、この機能を必要な設定に合わせてください。ロゴには、電源とスタンバイを表示する役目もあります。スタンバイモードになると、ロゴがゆっくりと点滅します。

FACTORY RESET：これを使用して、モニターを、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

LOCK：ロックが解除されるまで、設定を変更することはできません。

マウントポイント付き

ROKIT G5 モニターのエンクロージャー底部には、マウントポイントがあります。このマウントポイントは、別売の KRK マウントブラケット、もしくは同じマウント穴パターンを有する他社製マウントブラケットに使用できます。(注記: 詳しい寸法図は、仕様データシートを参照してください。)

トラブルシューティング

電源が入らない場合...

- ・ 電源コードがアクティブスピーカーの背面パネルの IEC ソケットと電源コンセントに差し込まれているかを確認します。認定済み交流テスターを使用するか、正常に動作する電球スタンドを接続して、交流主電源に電気が来ていることを確認します。交流主電源が電灯スイッチやサージ防護器付きテーブルタップで制御されている場合、そのスイッチがオンになっていないことがあります。
- ・ アクティブスピーカーの電源スイッチが「オン」になっていることを確認します。
- ・ 電源表示灯が点灯しているかどうかをチェックします。パイロットランプはモニターのフロントパネルにある KRK ロゴです。電源表示灯が点灯しない場合、電源スイッチをオフ

にして交流電源ヒューズをチェックしてください。ヒューズは電源コンセントの真下にあります。

指定定格以上のヒューズは絶対に使用しないでください！

- ・ ヒューズをチェックしたら、電源スイッチをオンにします。電源表示灯が点灯します。
- ・ ヒューズの交換が必要かどうかをチェックします。モニターの電源を入れたときに再度ヒューズが切れた場合、お買い上げの販売店か KRK を通じて修理を依頼してください。

一部の音が聞こえない場合

- ・ 次のステップに進む前に、上記のトラブルシューティング・セクションの手順を繰り返してください。
- ・ 同じ電源コンセントを使って、他のオーディオデバイスが動作しているかどうかチェックしてください。
- ・ オーディオソースのケーブルが、ソースの出力とモニターの入力に接続されていることを確認してください。
- ・ 信号源（ミキシングコンソール、ワークステーション、CD プレーヤーなど）の出力が適切なレベルになっていることを確認してください。
- ・ オーディオソースがモノまたはステレオモードになっていること、あるいはミックスの情報も別々にパンされることで、異なる解除が生じることを確認してください。ステレオでは音が聞こえるけれど、モノでは聞こえない場合、左チャンネルと右チャンネル間の長い遅延、または極性反転による位相解除が原因の可能性があります。極性を間違えないように、マッチングケーブルを使用してください。
- ・ モニターのいずれかから音が出ることを確認してください。音が出ない場合、音の出ないモニターからの入力ケーブルを、音の出るモニターのケーブルとつなぎ替えてみてください。これにより、音が出ない原因が、モニターであるか、ケーブルの断線か、それ以外の不具合であるかが判別できます。
- ・ それでもモニターが動作しない場合は、購入された販売代理店に返送するか、KRK までご連絡になり、サービスの方法についてご相談ください。

モニターが急に動作しなくなった場合

- ・ モニターのレベルを下げるかオフにします。
- ・ 次のステップに進む前に、上記のトラブルシューティング・セクションの手順を繰り返してください。
- ・ アンプの背面プレートが熱くなっているかどうか慎重にチェックしてください。モニターを最大出力で長時間動作させ続けると、過熱し、保護回路によってシステムが一時的に停止することがあります。モニターには、交流電源サージ、アンプのオーバードライブ、アンプの過熱から保護する回路が搭載されています。本器の電源を切り、背面プレートの温度が下がるまで 30 分お待ちください。電源スイッチをオンにします。
- ・ ボリュームを上げ、正常に動作するかチェックしてください。
- ・ それでもモニターが動作しない場合は、購入された販売代理店に返送するか、KRK までご連絡になり、サービスの方法についてご相談ください。

音質が変化する

- ・ 次のステップに進む前に、上記のトラブルシューティング・セクションの手順を繰り返してください。
- ・ 音質は、リスニングルーム内やリスニングポジションの変更によって変化する可能性があります。低周波数（低音特性）は、家具および/または大型機器の配置などの変更によって、高くなったり低くなったりすることがあります。スピーカーやリスニングエリアを異なるポジションに移動してみるか、許容できる音質が得られた状態に、リスニングルームに戻してみてください。
- ・ 低音周波数が低くなると、左チャンネルと右チャンネル間に極性反転や長時間の遅延が生じる場合があります。また、ミックスの情報も別々にパンされることで、異なる解除が生じます。オーディオソースをチェックして、1 つのチャンネルの極性が切り替わっているか、または長時間の遅延が使用されているかを確認してください。極性を間違えないように、マッチングケーブルを使用してください。
- ・ モニターの入力信号ケーブルを外して、音量調整を最小レベルに設定します。電源を入れ、音量を最小から徐々に上げながら、各ドライバー（ツイーター/ウーハー）に耳を近づけてノイズ（かすかなヒス音やハム音）が聞こえるかどうか確認してください。耳をドライバー（ツイーターとウーハー）に近づけている間の音圧レベルの増大を避けるために、音量は最小から徐々に調整することが重要です。全く何も音がしない場合、ドライバーの不具合の可能性があります。回路に不具合がある可能性もあります。

- ・ 低音量で、歪のない音源を再生してください。振動板に触れないように、慎重にツイーターを覆って音をブロックします。ウーハーから歪のない音が出ていますか？音質が悪い場合や音が聞こえない場合はウーハーを交換する必要があります。
- ・ ソースの信号レベルが変更されていないことや、ソースが変更されていることを確認してください。これは、ソースのヘッドホン出力をヘッドホンに接続し、音が大きくないまたは歪がないことを確認してテストすることができます。ソース (プリアンプ段階) で音質が悪い場合、アクティブスピーカーが原因ではありません。

モニターからハム音などの大きなノイズが聞こえる...

- ・ 電源コードがモニター背面の IEC ソケットにしっかり差し込まれていることを確認します。
- ・ 信号ソースとモニター間の接続を確認します。すべて正しく接続され、ケーブルが損傷したり、不適切に配線されたりしていないことを確認します。
- ・ 平衡ケーブル変換に不平衡出力を使用している場合、正しく接続されていることを確認します。シールドは不平衡なソース接地、XLR のピン 1 とピン 3 (または ¼" TRS ジャックのスリーブとリング) に接続されています。
- ・ オーディオ機器がすべて同じアースポイントに接続されている必要があります。ライトディマー、ネオンサイン、テレビ画面、コンピューターモニターなど、その他のすべての機器が建物内の同じ交流電源に接続されているかどうかを確認します。これらの機器を、同じ電源回路に接続しないでください。
- ・ 信号ケーブルが AC 電源ラインまたは他の EMI ソース (壁の電源アダプターやコンピューターなど) の近くに配線されていることを確認します。
- ・ サーという大きな音がするのは、スピーカーを接続する前のゲイン設定が間違っている可能性があります。モニターを接続する前に、ソース信号がうるさくないことを確認します。これは、信号源のヘッドホン出力をヘッドホンに接続してテストできます。
- ・ 不具合の場所がどこか大体的に見当がついたら、弊社サービスセンターにご連絡ください。担当者が修理方法についてお教えいたします。